中野区立歴史民俗資料館だより

しいのき

第８号

名優華麗な顔合せ

名誉館長　三　隅　治　雄

明けましておめでとうございます。開館以来、３度目の正月を迎え、区民との交流も深まり、多くの方の御厚志をえて、収蔵品も年々充実してまいりました。昨秋も、区内の篤志家から多数の浮世絵コレクションの寄贈を受け、山﨑家所蔵の逸品に加えて、いずれ華麗な浮世絵展を企画しうるほどになったことを喜んでおります。

今回の寄贈作品の中で特に目立つのは豊原国周（1835～1900）の役者絵です。芝居の替り目ごとに絵双紙屋の店先きを飾る役者似顔絵は、美人画と並ぶ錦絵の華ですが、国周は幕末から明治中期かけての最高の人気作家で、三枚続きの大首絵（顔をアップに描く）に特色を示しました。写真は、維新前後に人気を二分した五世坂東彦三郎と四世中村芝翫、それにのちに九世市川団十郎を加えて団・菊・左とうたわれた五世尾上菊五郎・初代市川左団次の顔合わせのもので、その他演劇史料としても貴重なものが多々あります。

文化財よもやま話

描く年齢・描かれる年齢

女性の表情は男性にとって常に気になるものです。今回は、当館所蔵浮世絵の中から、豊原国周の描く、若い女性像をモデルに、作者の年齢と描きかたの変化を見てみましょう。

写真１

写真１は安政４年（1857）作者22歳の時の作品です。均整のとれた三日月形の眉、クリッと見開いたまなこなどに清純可憐なおももちを見ることができます。

写真２は慶応元年（1865）作者30歳の時の作品「笠森於仙」です。描かれている女性の年齢は写真１と大差ないと思われますが、三日月ではあるが少しつり上った眉、眉に対し目尻のつり上ったまなこ、三白眼の瞳、若干まがった不思議な微笑に、したたかさを感じます。

写真２

写真３は明治18年（1885）作者50歳の時の作品です。眉尻が太くなる眉、うるんだ瞳、あごの下に描かれたしわなどに成熟した雰囲気を見ることができます。こう見てくると作者の年齢相応の女性像を感じますが、皆さんはいかがでしょうか。

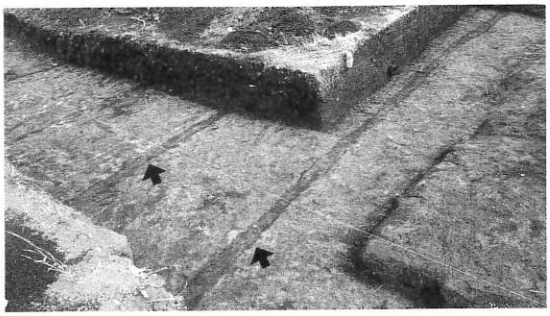
写真３

大地に眠る歴史

「大地を刻む」轍（わだち）

多くの日本人が自動車を運転する当世、ドライバーの皆さんの中にはぬかるみにはまって、脱出するのに苦労した経験をお持ちの方も多いはずです。今回は 500年ほど昔の、車にまつわるエピソードを紹介しましょう。

区内中野一丁目の城山居館（きょかんし）跡は中世の豪族が本拠地としていた場所で、その主（あるじ）は室町時代以降に当地の開発にあたった堀江氏と考えられます。この館（やかた）の内側の広場にあたる部分に、２本の並行な



帯状の凹みが発見されました。両者の間隔は 1.3ｍで、各々の幅は約10cm、深さは５cmほどありました。この痕跡のセットは全部で数ヶ所みつかり最長30ｍにもわたっていて、向きが変わるところもあるので、当時の二輪車の轍（わだち）、つまり車輪の転がった跡とみられます。

車と言っても、人が乗るためのものではなく、貨物用の荷車です。エンジンの代わりは低速でもパワーの大きい牛の力で、人間が押したり引いたりしていたかもしれません。具体的な様子を伝える手がかりは数少ないのですが、中世の絵巻物の中に姿をとどめている例が残されています。

おそらく雨が降った後の、ゆるんだ地面を荷車が通った時に、この凹みができたのでしょう。携っていた人の懸命な表情！が、彷彿と浮かんできます。

古文書つづり

豊臣秀吉の年賀状

年始参りは、賀状の礼ということで古代からあったそうですが、年賀状じたいはそう古いことではないと考えられていました。

当館に、一昨年、区内の大河原春雄氏から寄託された資料のなかに、豊臣秀吉の年賀状があります。正確にいえば、年賀返礼状ですが、昨年、新聞紙上で取り上げられたこともあるので、ご存知の方もあるかも知れません。その全文は以下のようなものです。（写真）

▲ 豊臣秀吉の年賀状

寔改年之慶事
重畳、更不可有休尽候
早々芳問、殊青銅百
疋送給候、祝着之至候
猶、賀慶逐日可申
述候、恐々謹言
正月十七日　秀吉（花押）
中嶋吉右衛門殿
御返報

この文書は、本紙の端を切って留めた書状の様子がはっきり残っているなど、大変よい状態のものです。ただ、受取り人の中嶋吉右衛門が、どういう人物かはっきりしないのが残念ですが、一点だけ、天正６年(1578)の「作州(岡山県北部)知行分之事」という文書があるというご教示を大阪城天守閣の内田九州男氏から頂きました。

ともあれ、この文書は、年賀や年玉の習慣など、いろいろなことを教えてくれます。

中野往来

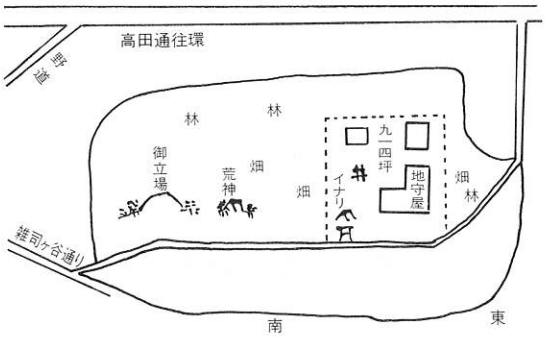
『中山御立場』の位置

中野筋には家光・吉宗・家治などの将軍が鷹狩に来ています。古い中野村の村絵図に記されている中山御立場も、江戸幕府が指定した御鷹野の一つです。

その位置は『武蔵名勝図会』によると、

「中野村の東北、落合村境、神田上水を見下ろし、柏木・戸塚・淀橋の町並と田圃を望む地」でありました。現在の東中野五丁目の高台一帯です。それを管理したと思われる旗本中山主馬の抱屋敷は、現東中野小学校のあたりだったようです。

中山氏は禄高2100石、この地には、寛永12年(1635)から嘉永６年(1853)まで抱屋敷がありました。



▲ 中山氏抱屋敷絵図（堀江家文書）

中野昔話

折をとられる

使いに行ってね、ご祝儀なんかにね、折をもらってくるんだよ。ねっ、その折とられちゃうんだよ。ああ、裏に狐がいるんだな。家帰ってみると、魚全然ねえんだよ、とられちゃって。そういうこともあったな。

この向こうに山があってね、今は国立病院になっちゃったよ。あすこに狐がずいぶんいたんだ。

（江原町　男　明治33年生）

『中野の昔話・伝説・世間話』から

事業報告

各種事業経過

事業名	内容	期間
企画展	「絵　馬」―託す心・人々の願い―	10/1～11/16
ミニ展	「酉の市と熊手展」	11/9～11/30
講演会	「絵馬に見る心」　講師　岩井宏實氏(国立歴史民俗博物館教授)	10/13
古文書講座	講師　白井哲哉氏（明大刑事博物館）・大友一雄氏（国立史料館）	(9/21)～11/16
史跡めぐり	「本町コース」　講師　鎌田　優氏（区広聴課長）	12/1
体験学習	「拓本教室」　講師　比田井克仁（館学芸員）	12/13～14
埋蔵文化財調査関係	中野城山居館跡発掘調査報告書刊行 江古田二丁目13番　民有地試掘調査	11/1 11/13

NEWS

※　加賀前田家の雛飾り寄贈される!!

寄贈者の酒井美意子さんは、加賀前田家のご長女で、現在は服飾研究家として活躍され「ある華族の昭和史」など著書も多く、TVでもおなじみの方です。寄贈されました雛飾りは2月に公開いたします。ご期待下さい。

※　遺跡報告書の刊行

『中野城山居館跡発掘調査報告書』

東京でも数少ない中世豪族の館跡の発掘調査報告書です。館の主は、堀江氏の可能性が高く、武蔵野の中世史を考える上では、重要な調査成果と言えます。

NEWS

▲ 寄贈した雛人形を説明する酒井美意子氏(左)
（右は、人形研究家の藤田順子氏）於研修室

句集「椎の実」より

立冬の
何が出るやら
蔵整理　　山﨑千枝

寄贈資料一覧

1991年8月～9月7日
敬称略・受入順

資料名	点数	氏名
日本かみそり一式	1	瀧口　明之
食器戸棚・食器	2	秋元　節子
ストーブ・自在鉤他	7	福　蔵　院
五月人形	1	小林　安男
貨幣	64	大橋　秀雄
やぐらこたつ	1	高橋　文敏
寺岡式バネ秤	1	根津　力三
御殿雛	1	米津富美子
石臼・ゲタ箱・香炉	3	坂井　照
羽二重しるしばんてん他	5	綱島松次郎
鶏肉玉子問屋玉手山看板	1	兎本　絹子
すわりづくえ	1	深野　秀夫

◎貴重な資料をありがとうございました。厚くお礼申上げます。

入館状況

1991年10月～12月（73日間）　（人）

一般	行政視察	学校教育	合計
6,531	220	1,140	7,891

発行年月日　1992年1月1日
編集・発行　山崎記念 中野区立歴史民俗資料館
〒165 東京都中野区江古田4－3－4
☎ 03(3319)9221　FAX 03(3319)9119
(印刷物登録番号　3中教社社第10号)